

エコアクション21 環境経営レポート

運用期間
2024年4月～2025年3月



2025年6月10日発行

 **株式会社 丸綿産業**

目次

ページ数

1	表紙
2	目次
3	(1) 組織の概要及び対象範囲
4	(2) 環境経営方針
5	(3) 中期環境経営目標
6	(4) 次年度以降の環境経営目標
7	(5) 2024年度 環境経営計画
8	(6) 環境経営計画に基づき実施した取組み内容
9	(7) 実施体制
10～11	(8) 2024年度環境経営目標の実績
12	(9) 次年度の主な取り組み及び活動計画
13	(10) 2025年度 環境経営計画
14	(11) 環境関連法規等への違反、訴訟等の有無
14	(12) 優良性評価制度の公表内容
15	(13) 許可の内容
16	(14) 代表者による全体評価と見直しの結果・指示

(1) 組織の概要及び対象範囲

①事業者名及び代表者名

株式会社 丸綿産業 代表取締役 後藤 秀一郎

②. 所在地

〒800-0242 福岡県北九州市小倉南区津田1丁目14番47号

③環境管理責任者氏名及び連絡先

環境管理責任者 後藤光作
連絡先 T E L : 093-475-4708
F A X : 093-647-0045 info@marumen.jp

④事業内容

製紙原料（古紙）の回収・リサイクル及び紙類の販売、
産業廃棄物・特別管理産業廃棄物・一般廃棄物の収集運搬、
機密書類の処理に係る業

⑤事業の規模

創 立：昭和55年5月
資本金：500万
従業員数：7名
売上高：100百万
床面積：735㎡

⑥認証・登録範囲

全組織、全活動

⑦事業年度：10月1日～翌9月30日

但し、報告データの取りまとめは、4月1日～翌3月31日です。

環境経営方針

基本理念

株式会社丸綿産業は、リサイクル事業及び廃棄物処理事業を通じて、限りある資源の有効利用に努めることで、美しい地球環境を保持し未来へ受け渡し、地域社会により良い生活環境を提供する様努めます。

基本方針

- 1 環境関連法規さらにリサイクル関連機関、団体及び関連企業からの要求事項を順守します。
- 2 当社の事業環境における課題と機会を認識し、顧客の要望に合わせた一般廃棄物・産業廃棄物（特別管理含む）の処理設備を充実させていきます。
- 3 環境経営方針の実行を確実なものとするため、環境経営方針に則した以下の項目について、目標を設定し、その実行とレビューを行い、継続的改善を図ります。
 - ① 二酸化炭素の排出削減に努めます。
 - ② 水使用量の削減に努めます。
 - ③ 廃棄物排出量の削減に努めます。
 - ④ グリーン購入品の推進に努めます。
 - ⑤ 環境に配慮した事業運営の推進に努めます。
- 4 行政機関・団体などの環境保全施策に協力すると共に、地域社会における環境保全活動に対し積極的に参画し、社会貢献活動を推進します。
- 5 環境経営活動レポートを作成し、環境取組の状況を公表します。

制定日 平成20年8月1日

改訂日 令和3年6月20日

株式会社丸綿産業

代表取締役社長 後藤 秀一郎

(3) 中期環境経営目標

環境目標	基準(2021年度実績) *2	2022	2023	2024	備考
(1) 二酸化炭素の総排出量の削減	58.86Kg-CO ₂ /ton	2021年比△1% 58.27Kg-CO ₂ /ton	2021年比△2% 57.68Kg-CO ₂ /ton	2021年比△3% 57.09Kg-CO ₂ /ton	今年度については、2021年度実績を基準とし、△2%の目標とした。処理量1トン当たりの使用電力をCO ₂ 換算した数値。(※1)
①燃料(軽油・ガソリン)の使用効率の向上	19.72L/ton	2021年比△1% 19.52L/ton	2021年比△2% 19.33L/ton	2021年比△3% 19.13L/ton	【処理量1トン当たりの燃料の使用量(L/Ton)】 今年度については、2021年度実績を基準とし、△2%の目標とした。
②電気の節約による資源エネルギーの有効活用 電気の使用効率の向上	16.19kWh/ton	2021年比△1% 16.03kWh/tonに削減	2021年比△2% 15.87kWh/tonに削減	2021年比△3% 15.70kWh/tonに削減	【処理量1トン当たりの電気の使用量(kWh/Ton)】 2021年度比各年△1%ずつとした。
(2) 排水の削減	排水に関しては、生活排水(トイレ、給湯)に限られ、微量のため、節水意識の向上に努める。				—
(3) 廃棄物排出量の削減	自社からの廃棄物排出量は微量のため、分別意識の向上に努める。				—
(4) グリーン購入品の促進	10	基準年度対比 +1品目	前年度対比 +1品目	前年度対比 +1品目	対象品目を増やしていく。
(5) 環境に配慮した事業運営	16 (再プレス回数)	15	15	15	事業所内で最も電力負荷の多いプレスを維持効率よく運営する。

*1: 二酸化炭素排出係数は九州電力の2020年度調整後排出係数 0.479kg-CO₂/kWhを使用しました。

*2: 2021年度収集運搬量: 2156トンを基準とする。

(4) 次年度以降の環境経営目標

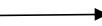
環境目標	基準 (2024年度実績)	2025年度	2026年度	2027年度	備考
(1) 二酸化炭素の総排出量の削減 (単位: kg-CO2/ton)	54.88	54.61	54.33	54.06	次年度以降の目標については、2024年度の実績値を基準として、2025年度: $\Delta 0.5\%$ 、2026年度: $\Delta 1.0\%$ 、2027年度: $\Delta 1.5\%$ を目標値とした。
①燃料(軽油・ガソリン)の使用量の削減 (単位:L/ton)	18.75	18.56	18.38	18.19	次年度以降の目標については、2024年度の実績値を基準として、2025年度: $\Delta 0.5\%$ 、2026年度: $\Delta 1.0\%$ 、2027年度: $\Delta 1.5\%$ を目標値とした。
②電気の節約による資源エネルギーの有効活用 電力使用量の削減 (単位: kWh/ton)	16.89	16.81	16.72	16.64	次年度以降の目標については、2024年度の実績値を基準として、2025年度: $\Delta 0.5\%$ 、2026年度: $\Delta 1.0\%$ 、2027年度: $\Delta 1.5\%$ を目標値とした。
(2) 排水の削減	排水に関しては、生活排水(トイレ、給湯)に限られ、微量のため、節水意識の向上に努める。				—
(3) 廃棄物排出量の削減	自社からの廃棄物排出量は微量のため、分別意識の向上に努める。				—
(4) グリーン購入品の促進	10	基準年度対比 +1品目	前年度対比 +1品目	前年度対比 +1品目	対象品目を増やしていく。
(5) 環境に配慮した事業運営 (再プレス)	16 (再プレス回数)	15	15	15	事業所内で最も電力負荷の多いプレスを維持効率よく運営する。

*九州電力 2020年度 CO2調整後排出係数(0.479)

(5)2024年度 環境経営計画

作成:2024/4/1

作成:後藤光作

計画:  実施確認:○

1. エネルギー投入量の削減

取組目標	活動項目	方法・対策	推進責任者	スケジュール			
				4~6月	7~9月	10~12月	1~3月
1 購入電力の削減	1 照明をこまめに消す	・推進責任者が日常監視する ・会議や朝礼でより意識の徹底をはかる ・3か月に一度再プレス数の確認	後藤	○	○	○	○
	2 バン線切れによる再プレスの減少		後藤	○	○	○	○
	3 決められた冷房温度設定の励行		後藤		○	○	
2 化石燃料使用量の削減	1 車両運転方法の配慮 ①冬季夏季のエアコン使用を抑える ②時間的余裕のある走行(急発進停車空ふかしをしない)	・推進責任者が日常監視する ・会議や朝礼でより意識の徹底をはかる ・収集ルートを検討 ・車両データによる検討評価と対策	後藤光作	○	○	○	○
	2 車両毎のリッター当りのキロ数を把握し意識の向上		後藤光作	○	○	○	○

2. 廃棄物排出量の削減

取組目標	活動項目	方法・対策	推進責任者	スケジュール			
				4~6月	7~9月	10~12月	1~3月
1 産業廃棄物排出量の削減	1 金属くず、廃プラスチックの分別処理の一層の促進	・推進責任者が日常監視する ・会議や朝礼でより意識の徹底をはかる ・分別の推進を図る	後藤文字	○	○	○	○
	2 禁忌品の混在を少なくするための案内		後藤文字	○	○	○	○

3. 総排水量(給水量)の削減

取組目標	活動項目	方法・対策	推進責任者	スケジュール			
				4~6月	7~9月	10~12月	1~3月
1 上水道使用量の削減	1 現場へは予定使用量以上に持たさない	従業員の意識の向上をはかる	後藤	○	○	○	○
	2 水漏れのチェックと防止	推進責任者は日常監視とチェックをする	後藤	○	○	○	○

4. グリーン購入品の促進

取組目標	活動項目	方法・対策	推進責任者	スケジュール			
				4~6月	7~9月	10~12月	1~3月
1 グリーン購入品の促進	1 グリーン購入の意識付け	消耗品購入の際、グリーン購入マークを優先	江藤	○	○	○	○

5. 環境に配慮した事業運営

取組目標	活動項目	方法・対策	推進責任者	スケジュール			
				4~6月	7~9月	10~12月	1~3月
1 プレス機の効率的な使用	1 再プレスの削減	再プレス数管理表でのデータ収集及び周知	江藤	○	○	○	○

(6) 環境経営計画に基づき実施した取組み内容

(1) 二酸化炭素の排出削減として、2021年対比3%の削減を目標を達成するため下記の活動を行うこととした。

①年間の前年対比で、処理量1トン当たりの燃料の使用量(L/Ton)を2021年比△3%の目標とした。

- 1) 車両毎の燃料消費量の把握。
各車両(パッカー車、ダンプ、トラック等)の月々の軽油使用量(消費量)をグラフ掲示。
各自に担当車両の軽油消費量を認識させる。
- 2) 車両保守・点検。
各車両の定期的な自主点検の実施。及び記録の実施。
- 3) 計画収集の収集コース再検討。
コース距離・積載量・収集順序・排出される方の希望等を考慮し、効率の良い収集コース順路を再検討する。
- 4) 車両の入れ替えによる消費燃料の抑制

②年間使用電力について、処理量1トン当たりの電気の使用量(kWh/Ton)で、2021年比△3%とした。

- 1) 空調機器の運転。
空調器運転の設定温度等を定め、運転作業標準とし運用する。
- 2) プレス機の使用効率UP(再プレスの減少、まとめたの処理等)
- 3) 照明機器類。
電灯類・電気器具等購入時は、省エネ型を随時導入する。

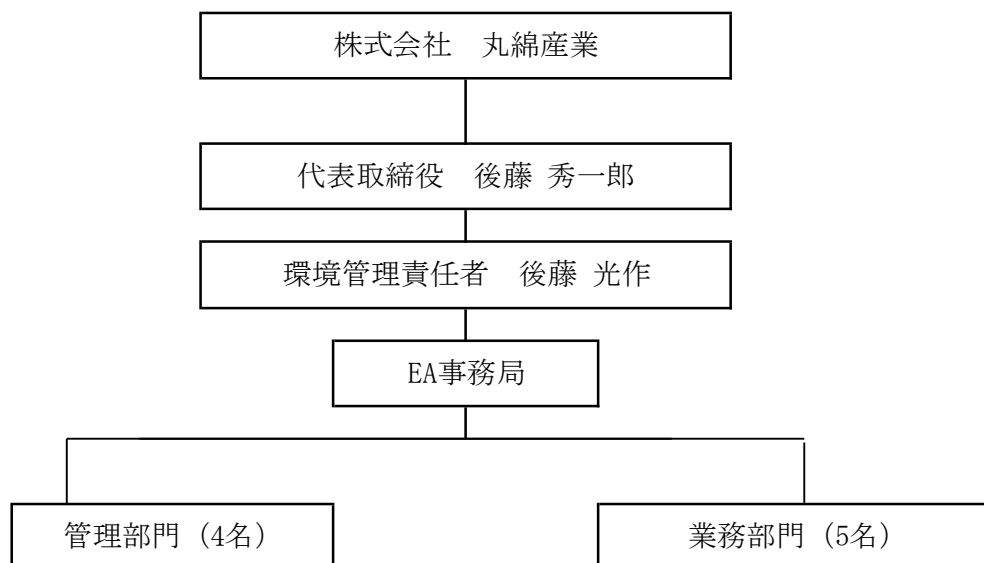
(2) 排水量の削減については、生活排水(トイレ、給湯)に限られ、微量のため、節水意識の向上に努める。

(3) 廃棄物について、分別を推進し、廃棄物の削減に努める。

(4) グリーン購入品の促進については、購入品目のカウントを行った。

(5) 環境に配慮した事業運営に関しては、使用電力の削減と業務効率の向上を目的として、再プレスの削減に取り組む。

(7) 実施体制



役割分担例

所属	責任・権限・使命
代表取締役	全体統括、環境方針の設定、環境への取組を実施するための資源の準備、全体の評価と見直し
環境管理責任者	全体の把握、環境経営システムを構築し、運用し、その状況を報告する
EA21運用の推進	朝礼やミーティング等のコミュニケーションを通して、環境目標の達成状況及び活動計画の実行状況を従業員へ周知させ意識の向上に努める
EA21事務局の管理	EA21文書及び記録類の作成・維持・管理
管理部門責任者	電力、水消費量、廃棄物の排出量の管理、環境管理責任者の補佐
運行管理者	車輛及び車燃料の管理
業務部門責任者	収集運搬におけるエコドライブ等の推進

(8)2024年度(2024年4月～2025年3月)環境目標の実績

作成日	社長	作成者
2025/06/10	後藤	後藤

1. 二酸化炭素排出量の削減

取組項目		基準 (2021年度実績)	2024年度(当該環境年度)					評価内容	
名称	単位		目標	実績					達成状況
二酸化炭素の排出量 (処理量1t当りのCO2排出量)	Kg-CO ₂ /ton	58.86	57.09	4月～6月	7月～9月	10月～12月	3月末合計	74.1%	産廃の受託収集運搬量の換算について修正したため、変化が大きかった。
				70.44	78.21	79.92	77.06		
購入電力	kWh	24,757	-	4月～6月	7月～9月	10月～12月	3月末合計	-	-
				4,571.00	5,699.00	4,924.00	20,758.00		
利用率 (処理量1t当りの電気の使用量)	kWh	16.19	15.70	4月～6月	7月～9月	10月～12月	3月末合計	達成状況	電力に関しては処理量の減少による影響が大きいものである。
				17.65	19.23	28.55	18.13	86.6%	
化石燃料	利用率 (処理量1t当りの燃料の使用量)	19.72	19.13	3月末合計				達成状況	今回より、産廃の受託収集運搬量を加算したため、改善した。
	26.61				71.9%				
	購入燃料	27,155	—	30,461				—	
	処理量	2,156.0	—	1,144.8				—	-
	二酸化炭素の総排出量	—	—	—				—	-

2. 廃棄物排出量の削減

取組項目		基準(2021年度実績)	2024年度(当該環境年度)					評価内容		
名称	単位		目標	実績					達成状況	
産業廃棄物	コンクリート片(再生利用)	t	2.04	5.45	努力目標			10.57	51.6%	△
	がれき類(埋立)	t	1.26							
	金属くず(再生利用)	t	0.00							
	廃プラスチック(再生利用)	t	0.26							
	ダンボール類(再生利用)	t	0.00							
	木くず(再生利用)	t	0.00							
	リサイクル不可物(破砕・焼却)	t	0.00							

3. 水使用量の削減

取組項目		基準(2021年度実績)	2024年度(当該環境年度)				評価内容			
名称	単位		目標	実績				達成状況		
総排水量 (給水量)	総排水量	立方メートル	110	努力目標	4月～6月	7月～9月	10月～12月	3月末合計	達成	大きな変化はないが、節水意識を維持している。
				25.5	24.5	24.4	99.0			

4. グリーン購入品の促進

取組項目		基準(2021年度実績)	2024年度(当該環境年度)				評価内容		
名称	単位		目標	実績				達成状況	
グリーン購入品	品目	10	10	4月～6月	7月～9月	10月～12月	3月末合計	100.0%	○
				4	2	2	10		

5. 再プレスの削減

取組項目		基準(2021年度実績)	2024年度(当該環境年度)				評価内容		
名称	単位		目標	実績				達成状況	
ペーラーによる再プレスの削減	個	16	15	4月～6月	7月～9月	10月～12月	3月末合計	107.1%	意識づけにより、サイプレスの削減に取り組んでいる。
				4	2	5	14		

(9) 次年度の主な取り組み及び活動計画

(1) 二酸化炭素の排出削減活動

① 燃料の効率的な利用

- 1) 車両毎の燃料消費量の把握。
各車両(パッカー車、ダンプ、トラック等)の月々の軽油使用量(消費量)をグラフ掲示。
各自に担当車両の軽油消費量を認識させる。
- 2) 車両保守・点検。
各車両の定期的な自主点検の実施。及び記録の実施。
- 3) 計画収集の収集コース再検討。
コース距離・積載量・収集順序・排出される方の希望等を考慮し、効率の良い収集コース順路を再検討する。
- 4) 車両の入れ替えによる消費燃料の抑制

② 使用電力の効率的な利用

- 1) 空調機器の運転。
空調器運転の設定温度等を定め、運転作業標準とし運用する。
- 2) 照明機器類。
電灯類・電気器具等購入時は、省エネ型を随時導入する。

(2) 排水量の削減

生活排水(トイレ、給湯)に限られ、微量のため、節水意識の向上に努める。

(3) 廃棄物について、分別を推進し、廃棄物の削減に努める。

(4) グリーン購入品の促進については、エコ推進マーク等の認識を深める。

(5) 環境に配慮した事業運営

ベラーでの再プレスの削減による使用電力の有効利用
再プレス数の把握及び従業員への意識を高める為のグラフ化と掲示

(10)2025年度 環境経営計画

作成:2025/6/10

作成:後藤光作

計画: —————> 実施確認:○

1. エネルギー投入量の削減

取組目標	活動項目	方法・対策	推進責任者	スケジュール			
				4~6月	7~9月	10~12月	1~3月
1 購入電力の削減	1 照明をこまめに消す	・推進責任者が日常監視する ・会議や朝礼でより意識の徹底をはかる ・3か月に一度再プレス数の確認	後藤				▶
	2 パン線切れによる再プレスの減少		後藤				▶
	3 決められた冷房温度設定の励行		後藤			▶	
2 化石燃料使用量の削減	1 車両運転方法の配慮 ①冬季夏季のエアコン使用を抑える ②時間的余裕のある走行(急発進停車空ふかしをしない)	・推進責任者が日常監視する ・会議や朝礼でより意識の徹底をはかる ・車両データによる検討評価と対策	後藤光作				▶
	2 車両毎のリッター当りのキロ数を把握し意識の向上		後藤光作				▶

2. 廃棄物排出量の削減

取組目標	活動項目	方法・対策	推進責任者	スケジュール			
				4~6月	7~9月	10~12月	1~3月
1 産業廃棄物排出量の削減	1 金属くず、廃プラスチックの分別処理の一層の促進	・推進責任者が日常監視する ・会議や朝礼でより意識の徹底をはかる ・分別の推進を図る	後藤文字				▶
	2 禁忌品の混在を少なくするための案内		後藤文字				▶

3. 総排水量(給水量)の削減

取組目標	活動項目	方法・対策	推進責任者	スケジュール			
				4~6月	7~9月	10~12月	1~3月
1 上水道使用量の削減	1 現場へは予定使用量以上に持たさない	従業員の意識の向上をはかる	後藤				▶
	2 水漏れのチェックと防止	推進責任者は日常監視とチェックをする	後藤				▶

4. グリーン購入品の促進

取組目標	活動項目	方法・対策	推進責任者	スケジュール			
				4~6月	7~9月	10~12月	1~3月
1 グリーン購入品の促進	1 グリーン購入の意識付け	消耗品購入の際、グリーン購入マークを優先	江藤				▶

5. 環境に配慮した事業運営

取組目標	活動項目	方法・対策	推進責任者	スケジュール			
				4~6月	7~9月	10~12月	1~3月
1 プレス機の効率的な使用	1 再プレスの削減	再プレス数管理表でのデータ収集及び周知	江藤				▶

(11) 環境関連法規等への違反、訴訟等の有無

弊社事業活動に関わる環境関連法規等の順守状況を確認した結果、違反はありませんでした。
 関係機関等からの指摘、利害関係者からの訴訟や苦情は、過去3年間において、ありませんでした。

法令	順守状況
廃棄物処理法	問題なし
消防法	問題なし
フロン排出抑制法	問題なし
家電リサイクル法	問題なし
自動車リサイクル法	問題なし

(12) 優良性評価制度の公表内容

(1) 車両台数

- キャブオーバー：1台
- ダンプ：5台
- パッカー：4台
- 脱着装置付コンテナ専用車：3台
- 保冷バン：1台
- 軽トラック：1台

積み替え保管場所：38㎡
 保管上限量：84.4㎡

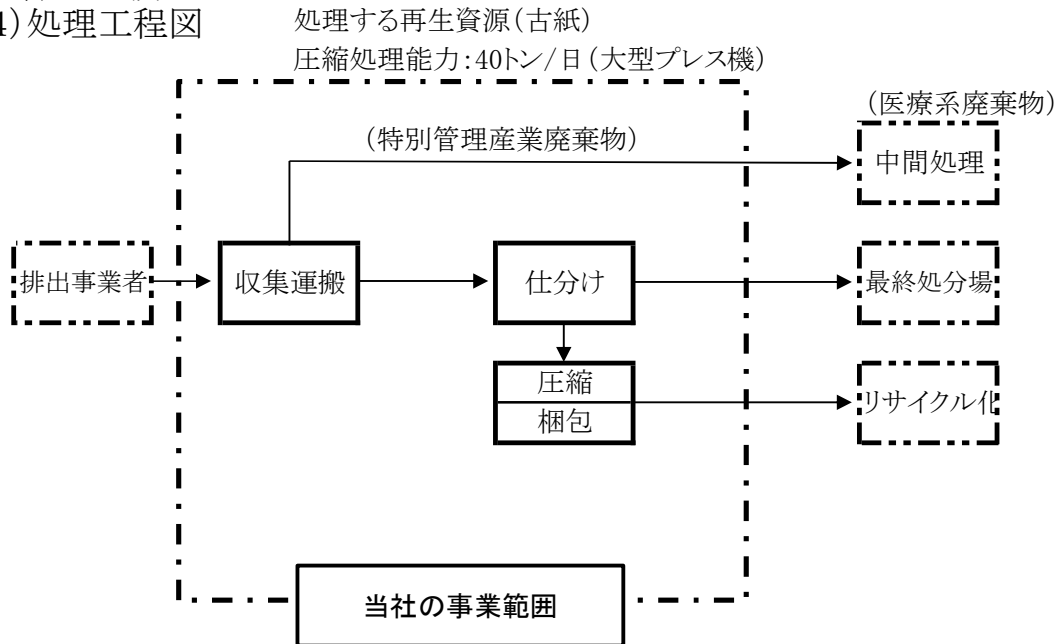
(2) 処理実績

- 再生資源の回収・収集量 1114.53トン／年
- 産業廃棄物収集運搬量 19.67トン／年
- 再生資源のリサイクル量 1114.53トン／年

(3) 廃棄物処理料金

都度見積

(4) 処理工程図



(13) 許可の内容

番号	1	2	3
許可の種類他	一般廃棄物収集運搬	産業廃棄物収集運搬	産業廃棄物収集運搬
許可番号等	北九一廃 第137号	第07610141975号	第04000141975号
届出機関等	北九州市	北九州市	福岡県
有効期限	令和6年8月11日から 令和8年8月10日まで	令和5年4月22日から 令和10年4月21日まで	令和5年5月30日から 令和10年5月29日まで
事業の種類	A類(ふん尿を除く一般廃棄物)	【積替え又は保管を含まない】 燃え殻、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類(自動車等破砕物を除く)、紙くず、木くず、繊維くず、動植物性残さ、ゴムくず、金属くず(自動車等破砕物を除く)、ガラスくず(自動車等破砕物を除く)、鉱さい、がれき類、ダスト類、政令第2条第13号廃棄物、以上17種類(石綿含有産業廃棄物、水銀使用製品産業廃棄物、水銀含有ばいじん等を含む)(特別管理産業廃棄物であるものを除く。) 【積替え又は保管を含む】 廃プラスチック類(自動車等破砕物を除く)、紙くず、木くず、金属くず(自動車等破砕物を除く)、ガラスくず(自動車等破砕物を除く)、がれき類、以上6種類(石綿含有産業廃棄物、水銀使用製品産業廃棄物、水銀含有ばいじん等を含む。)(特別管理産業廃棄物であるものを除く。)	【積替え保管を含まない】 廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず等(以上3品目については、自動車等破砕物を除く。)、燃え殻、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、紙くず、木くず、繊維くず、動植物性残さ、ゴムくず、鉱さい、がれき類、ばいじん、政令第2条第13号廃棄物(廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ガラスくず等、がれき類、汚泥については、石綿含有産業廃棄物を含む。)(汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず等については、水銀使用製品産業廃棄物を含む。)(燃え殻、汚泥、廃酸、廃アルカリ、鉱さい、ばいじんについては、水銀含有ばいじん等を含む。)以上17品目
事業地域	北九州市内	北九州市	福岡県域
条件	なし	なし	なし
申請許可収集運搬機材(車両)	キャブオーバー:1台 ダンプ:5台 パッカー:4台 保冷バン:1台 脱着装置付コンテナ専用車:3台 軽トラック:1台	キャブオーバー:1台 ダンプ:5台 パッカー:4台 保冷バン:1台 脱着装置付コンテナ専用車:3台 軽トラック:1台	キャブオーバー:1台 ダンプ:5台 パッカー:4台 保冷バン:1台 脱着装置付コンテナ専用車:3台 軽トラック:1台

番号	4		
許可の種類他	特別管理産業廃棄物収集運搬		
許可番号等	第04050141975号		
届出機関等	福岡県		
有効期限	令和5年5月30日から 令和10年5月29日まで		
事業の種類	燃え殻、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、鉱さい、ダスト類、感染性産業廃棄物、廃石綿等以上9種類		
事業地域	福岡県域		
条件	なし		
申請許可収集運搬機材(車両)	キャブオーバー:1台 ダンプ:5台 パッカー:4台 保冷バン:1台 脱着装置付コンテナ専用車:3台 軽トラック:1台		

(14) 代表者による全体評価と見直しの結果・指示

【全体評価】

環境経営システムが有効に機能しているか

顧客との取引条件として考えているが、官庁等への一般入札は減少しており、必要な経営システムと認識しているが、今後継続するか検討の余地がある。人材の採用状況は厳しい状況が続いている。環境活動の充実においては、個々の社員の意識は向上している。

環境への取組は適切に実施されているか

環境経営活動の取組みにおいて、エコアクションに加え、SDGsの取組みも検討して、全従業員の意識向上に努めてもらいたい。

【変更の必要性と指示】

環境経営方針

環境経営方針は継続する。

環境経営目標・環境経営活動計画

- ・日々の環境活動では、報告・連絡・相談を励行することにより、体制の充実、維持を図って貰いたい。
- ・社内外の情報を積極的に取得し、取得した情報を社内全員が共有すること。

環境経営システム等(実施体制含む)

エコアクション21の要求事項に合わせて、意識向上を図り、古紙のリサイクルと共に、産業廃棄物の収集運搬量を増やしていく。